

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0270301245		
法人名	有限会社ケア・ユニーク		
事業所名	リビング・ホームおおつか		
所在地 (電話番号)	〒031-0833 青森県八戸市大久保字大塚17 - 1055 (電話) 0178 - 32 - 3511		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030 0822 青森県青森市中央3丁目20 30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月27日	評価確定日	平成22年4月19日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 12月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,500 ~ 冬期18,900円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青森労災病院、八戸平和病院、たかのほし歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は民家から離れた場所に立地しており、連携が難しい点はあるが、町内会に加入し情報提供を受けながら、催し物等への参加を通じ関係づくりを行っている。事業所内はゆったりと落ち着いた雰囲気であり、各居室の入り口や共有空間が見渡せる配置となっている。一人ひとりのペースを大事にしながら、理念に沿ったサービス提供に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で改善課題となった項目に関して話し合いが行われ、少しずつ改善・向上に繋がっている為、継続的な働きかけをし、更なるステップアップに期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員が目を通し、サービスの向上への動機付けとなるよう会議等で検討している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に開催されており、事業所の取り組みについてや外部評価結果の報告、認知症について、災害対策等をテーマにし意見交換や協力体制作りについて働きかけが行われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族の面会時の声かけや随時の電話連絡の際に意見を引き出せるように配慮している。また、運営推進会議等を利用して家族から意見や要望を聞き、運営に反映させる取り組みが行われている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>立地環境もあるが、地域の一員として必要とする活動や役割を担える状態となっていない為、利用者が地域で暮らし続ける基盤として、地域とのかかわりを意識した取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ふつうの暮らし」を送るという理念を掲げ、9名で家族のように暮らしていけるようにと、入居者のペースを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の目に付くところに掲示し、周知徹底を図っている。入社時には教育を行い、毎月の会議の際にも唱和して実践に向けた取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入することで、地域の敬老会の参加について呼びかけがあった。市の中学生による職業体験で2～3名の受入れを行っている。日常的な地域とのかかわりについては周辺に住宅が無く交流が無い状態である。		周辺には住宅が少ないが医療機関、教育機関、グループホームがあるため、住民に限らず周辺の状況を活かした取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全員が目を通し、改善すべき点については会議で検討している。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価について運営推進会議で報告している。また、その他の取り組みについても報告し、意見をいただいている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課担当者や地域包括支援センターのケアマネジャーとも連携を取っている。課題について相談するなど、協働で課題解決を図っていくよう取り組まれている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど学ぶ機会を設けている。また、事業所内で伝達研修を実施し、職員に周知している。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について日頃から話し合いをされている。身体チェックを行い、気になることは看護職員や家族にも連絡を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には重要事項説明書、契約書等の説明を行い同意を得ている。入居後であっても不安や疑問に思うことはその都度説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時やホーム便りを利用して暮らしぶりを伝えている。健康面についてはその都度連絡を行っている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議の際に意見を収集するようにしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職理由を入居者に説明することで納得を得るようにしている。引き継ぎについては十分に期間を設けている。職員の異動は行っていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症の実践者研修に職員の半数以上が参加している。他の研修にも積極的に参加され、職員の育成への対応がなされている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八戸市グループホーム協議会や介護支援専門員協会の研修会、交流会に参加し情報交換や意見交換をしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>生活歴の把握については家族からも聞き取りをし、アセスメントシートに基づき安心できる環境づくりに努めている。入居する際には歓迎会を行う等の工夫をしている。また、職員は入居者同士の橋渡し役を担い、早く馴染めるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>コミュニケーションを重視して、共に生活するという意識をもって支援している。職員からの一方的な声かけにならないように、生活歴から教えてもらえるような場面設定等に工夫をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり、日頃の関わりの中から一人ひとりのやりたいことを把握するように努めている。何から始めるか、何が困難なのかを説明し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用しアセスメントを行い、本人、家族から情報収集を行い介護計画につなげている。介護計画作成については原案作成後に家族の意見を聞き、一方的な介護計画にならないように努めている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直し、モニタリングを実施している。カンファレンスは全職員が参加して実施している。月1回の会議の際に気になる点や事項について検討するようにしている。急な介護計画の変更が必要な場合はその都度変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じた対応に心がけている。実際には居宅支援事業所との連携を行っている。在宅生活に戻るケースがある場合には在宅での生活がスムーズに行えるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、こだわることなく以前からのかかりつけ医のところへ定期的に通院できるように支援している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に指針について説明している。また、重度化の場合にはその都度説明を行っている。重度化して対応が難しくなった場合は特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の医療機関への移行を勧めるなど、指針による判断を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類等の持ち出し禁止を徹底している。個人情報の取り扱いについては入社時に教育している。声がけや対応については、プライバシーを損ねないよう意識しながら支援している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から消灯までの流れは決まっているが、本人の希望にあわせ、臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>カロリー計算をして献立作成を行っている。盛り付けは感染症の観点から入居者による準備は行わないようにしている。内服薬や疾病による制限については看護師の指示を仰ぎ対応している。1日の献立を見えるようにするなど、食事が楽しいものとなるよう工夫している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>午前の入浴を希望する入居者が多い。皮膚の状態等で最後の順番にする等配慮が必要な場合を除いては希望に沿うようにしている。週2回の入浴のほか、毎日足浴を実施している。入浴剤を使用する等の工夫もしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>アセスメント時に生活歴等から役割や楽しみごとの把握に努め、支援できるようにしている。自分の衣類を畳む等、個々の性格や今までやってきたことにも目を向けて支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>行事での外出はある。希望に添えるように勤務上外出できる時間帯を確認して対応できる体制をとっている。家族との外出も行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてマニュアル化されている。内部や外部研修で学ぶ機会があり、身体拘束をしないケアへの取り組みがされている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間は施錠しているが、日中は施錠していない。職員が見守りを行い、自由に出入りができている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は消防署と協力して行っているが、地域の協力が得られていない。		地域住民の手を借りることは住民が居住していない地域であるため困難な点も理解できるが、周囲の教育機関や隣接する医療機関、グループホームの取り組みを参考に何らかの協力体制を構築し、災害時に対応できる取り組みに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行っている。入居者の状態により、刻み食にする等の工夫をしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、感染症に留意しなくてはならない期間(冬期間)は職員のマスク着用を徹底する等、意識的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓からは光が入りやすくホーム内は明るい。廊下は非常に広く車椅子でも十分にすれ違うこともできるスペースである。心地よく過ごせる空間となるよう工夫している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室も本人の状態に合わせてポータブルトイレや手すりを設置しているが、雑然としないように本人の作成した作品を掲示する等の工夫が見られる。また、家庭で使い慣れた家具等を持ってきてもらい、居心地の良い居室づくりに努めている。</p>		

 は、重点項目。